

毎週日曜発行
2024 6/23

こども新聞
週刊がほピョンプレス

河北新報社 TEL.022-211-1111(月曜から金曜)



梅雨入りする6月から10月までは、雨が多くなる「出水期」です。毎年各地で土砂災害が発生し、多くの命が奪われています。多くの命が奪われていることから、国などは6月を土砂災害防止月間と定めています。



はやかアドバイザーの

学ぼう防災

15

きょうのテーマ

みんな思い出

みんな動こう

みんな知りたい

みんな守ろう

みんなトモダチ

あなたの暮らす地域はどんな土砂災害が想定されるかな？

土砂災害のパターン

急なげけが突然崩れ落ちる

山や谷の土砂が大雨の水と一緒に、ふもとまで押し流す

地下にたまった雨水が地面を押し上げ、斜面ごと滑り落ちる

地域を知って土砂災害から命を守ろう

あの斜面が崩れやすいかも

向こうに避難所の標識を発見

地域を歩いて危険箇所や災害の対策を調べる

地域みんなが安全に避難する方法を考えたよ

防災訓練や研修会に参加して知識を深める

イラスト: 本郷由紀子

危険箇所調べ 対策を共有

土砂災害から命を守る

ついで学び、自分の命は自分で守るよう心がけることが重要です。学校の周辺を調べる学習や、市町村の状況を調査する際は、斜面など土砂災害が発生しやすい地形や場所、山や川の石の大きさや水の量を観察し、写真を撮って絵地図にまとめてみましょう。調査結果や写真をみんなで共有するのもいいです。

すね。雨が降った場合の危険箇所や防災施設に注目することで、身近な場所の危険や、被害を防ぐ対策に気付くことができます。日本の国土や気候、人々の生活を学ぶ際は、山地が多く平野が少ない、季節によって雨が集中して降るなどの特徴や、森林の機能や生活との関わりを調べ、土砂災害が

なくならない背景や原因を考えてみましょう。中学校では過去の災害の歴史とその対策、山間の人口減少や高齢化などの社会問題と土砂災害との関連性を見つけ、将来に向けた対策を考える力が求められます。土砂災害について学び、考えるのは、地域に住む防災リーダーやボランティアが参加する防災訓練や研修会でも可能です。ハザードマップを

用いたワークショップに参加する、避難に時間のかかる高齢者や障害のある方への支援方法を話し合うことも、共助の輪を広げることに繋がります。皆さんが、学校や地域活動のいろいろな場面で土砂災害を自分事として考え、自ら進んで安全で安心な社会づくりの一員になるよう期待しています。(仙台市防災・減災アドバイザー 早坂政人)

今週の注目ニュース

◇25日(火) 「アンネの日記」出版から77年 著者はユダヤ系ドイツ人の少女アンネ・フランク。2年間の隠れ家生活を書いた日記は1947年に出版。世界でベストセラーに。アンネは44年、ナチス・ドイツによって収容所に送られ、15歳で亡くなりました。

きょうの紙面

- 2面 ニコ☆プチ
- 3面 3分チャレンジ
- 4・5面 わが校わがまち スクール通信
- 6面 くわしく学べる! こども英語
- 7面 投稿特集
- 8面 子育て・教育相談コーナー